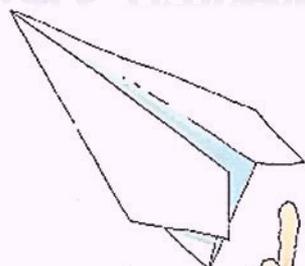


高等学校における多様な支援ニーズに応じた教育の充実をめざして

# 「チーム支援」で取組もう Ver.1

～みんなが資源・みんなで支援～



将来の自立と社会参加



目の前の苦戦している生徒の **情報共有** から始めましょう！！

本人主体

本人の思い・願いを  
聞いてみましょう

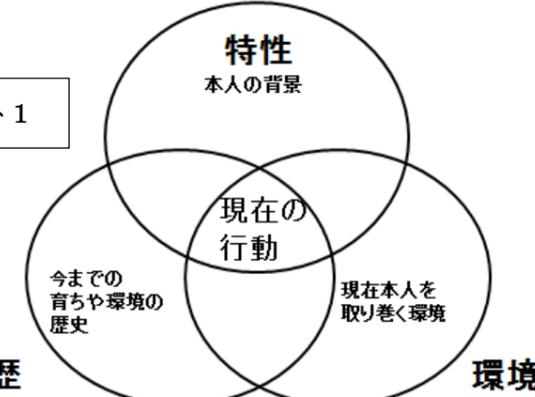
生徒の状態像は様々

その時、その時の生徒の言動・様子は、  
どれも重要な情報です

「チーム支援」とは、特別な支援を必要とする生徒の情報をチームで共有し、学びと育ちを保障する視点で共通理解を図りながら適切な指導・必要な支援を考え実践していく支援体制です。

# 生徒の学びと育ちを支える「チーム支援」

情報共有シート 1



生育歴

養護教諭

保健主事

進路指導主事

担任

ベクトル合わせ 1  
(状態像の情報共有)

生徒指導主事

特別支援教育  
コーディネーター

ベクトル合わせ 2  
(支援に向かう情報共有)

R 多面的な実態把握  
\* 環境とセットで生徒の姿をとらえましょう

本人の思い・願い

P 支援の方向性  
\* 支援の優先順位を決めましょう

D 実践  
\* 意識して対応する(聴く・話す・かかわる)

ケース検討 ①

トライアルシート

記入者( ) 日 月 日

対象生徒名( )

生徒たちと次の項目の視点でかかわってみましょう。やってみてよかったことには○を、そうでなかったことには✓をつけてみましょう。

		質問項目	○/✓
いき係友だちがうとうと困ったので関	友	1 ストレートに伝えた方が真意が伝わりやすい。	
	友	2 その時の場面について伝えると、次からはわかまえて話ができることが多い。	
	友	3 その時の相手の感情について伝えると、次からはわかまえて話ができることが多い。	
	友	4 友人関係がうまく築けないが、間に大人が入ることでトラブルが少なくなる。	
	友	5	
て字を書きよくだに困	書	6 板書を全部ノートに取ることは難しいが、色チョークで書くポイントを伝えると書くことができる。	
	書	7 板書を全部ノートに取ることは難しいが、ワークシートを用意すると書くことができる。	
	書	8 板書をノートに取ることが難しいが、板書の内容をコピーして渡すと内容は概ね理解できる。	
	書	9 マスや行を大きくすると字を書きやすい。	
	書	10 記述式の問題よりも選択式の問題だと答えやすい。	
	書	11 自分の思いや考えを、書くよりも口頭の方が伝えやすい。	
て字を読むよくだに困	読	13 指示を文章だけで示すよりも、図や印がある方が分かりやすい。	
	読	14 漢字に振り仮名をふると読める。	
	読	15 文章の体裁を変えると、読みやすい文章がある。	
	読	16 問題を読んで聞かせると、口頭で答えることができる。	
	読	17 実際にやってみせると、やり方が分かる。	
	読	18 やり方の手順を図等で示すことでやり方が分かる。	
だてせ提出するに物よ困	提	20 具体的に提出のスケジュールを示すと、提出できることが多い。	
	提	21 最低限やっておくよい範囲を示しておく、その部分をやって提出できることが多い。	
	提	22 提出用のプリントをクリアファイル等に入れて渡すと、なくしてしまうことが少ない。	
よ困で整理できなく	整	24 机の上に出しておくものを具体的に伝えと、必要なものだけ準備することができる。	
	整	25 置き場所を具体的に示すと、片づけることができる。	
	整	26 片づけ方を具体的に示すことで、片づけることができる。	
よ困で集中できなく	集	28 口頭による一斉指示は伝わりにくい、個別に指示を出すことでよく分かる。	
	集	29 口頭だけでなく、メモに書いてやることを伝えるとやること分かる。	
	集	30 活動を細切れ(25分)にすることで、授業時間の最後まで学習に取り組める。	
	集	31 教室の座席を、黒板の近くなどの前列にすると、授業に集中しやすい。	
	集	32	

トライアルシート

C 支援の見直し  
\* 支援の取組と今の生徒の姿を整理してみましょう

本人の思い・願い

A 改善  
\* うまくいっている支援の検討【継続・調整】  
\* うまくいかなかった支援の検討【継続・変更】

ケース検討 ②

D 実践  
\* 意識して対応する(聴く・話す・かかわる)

R 総合的な実態把握  
\* 支援の取組とセットで生徒の姿をとらえましょう

本人の思い・願い

まとめ 取組の振り返り  
特別支援教育の視点での意味づけ

ケース検討 ③

ベクトル合わせ 4  
(今後に向けた情報共有)

教科担任

学科主任

教務主任

スクール  
カウンセラー

学年主任

情報共有シート 2

生徒がうまくいっていること	どんなとき	どう接した	生徒の思い・願い
生徒が苦戦していること	どんなとき	どう接した	生徒の思い・願い

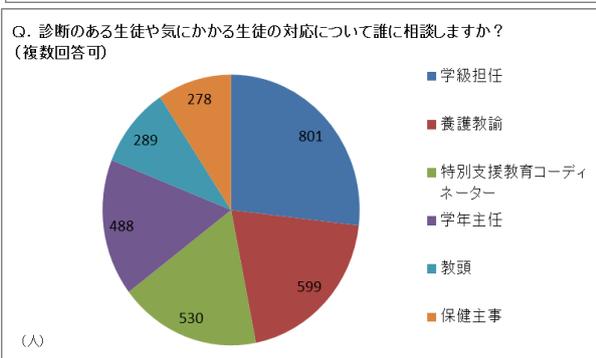
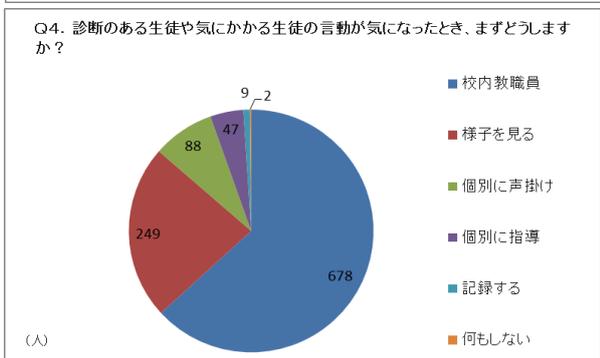
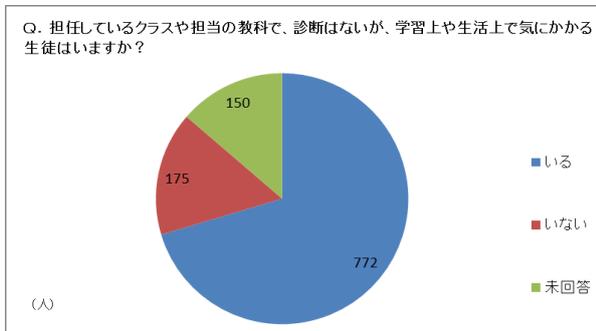
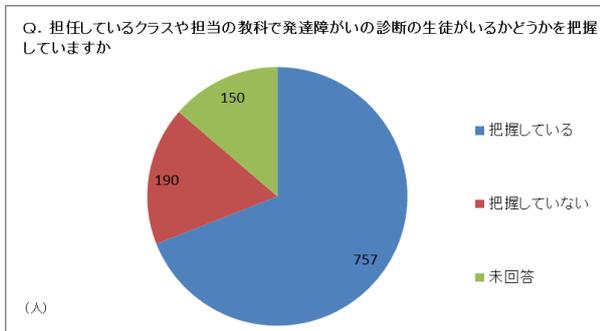
意識の変容

他のケース  
へ応用

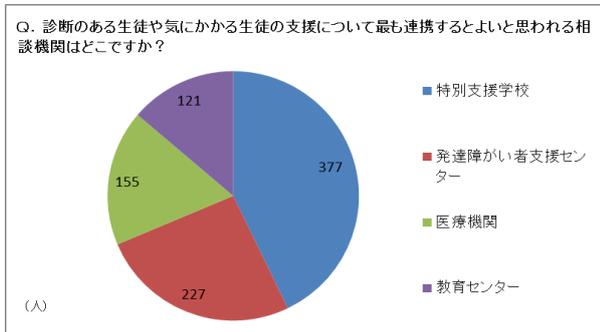
## 高等学校における多様な支援ニーズに応じた教育の充実にに向けた意識調査について

島根県内の全高等学校（県立、市立、私立）の全教職員の方を対象に意識調査を行いました。  
ご回答いただいた教職員（1,097名：回収率45.3%）の方の結果から、次のようなことが分かりました。

（調査期間：H27. 5. 25～6. 12）



※回答数の多かった6つを表示



※回答数の多かった4つを表示

校内で、「あれ？この生徒の様子が気にかかる。」と思った時、情報を校内の教職員で共有し、必要に応じて外部機関との連携も考えるとよいと思います。大事なことは「一人だけで考えない。チームで考える。」ということかもしれません。

なお、意識調査の詳細につきましては、島根県教育センターのホームページからご覧いただけます。

### 出前講座

テーマ設定をした講座を開催し、学校に指導主事が出向きます。

### 要請訪問

校内の研修会、ケース検討会などに、要請を受けて出向きます。

### 教育相談

（コンサルテーション）

生徒さんに関わる状況についてお聞きし、教職員の方と一緒に考えます。



コンサルくん

編集・発行／島根県教育センター教育相談スタッフ特別支援教育セクション

〒690-0873 島根県松江市内中原町 255-1 TEL(0852)22-6466 FAX(0852)22-6761



島根県教育センターホームページ [http://www.pref.shimane.lg.jp/matsue\\_ec/](http://www.pref.shimane.lg.jp/matsue_ec/) 「調査・研究」